

大阪大学山岳会の歩み

年	月	主な出来事・記録
1949	6	大阪大学山岳会発足 戦後初の全学組織。篠田軍治が会長に就任
	12	白馬岳主稜登攀（厳冬期初登、登頂は50年1月2日）
1950	3	八方尾根より鹿島槍ヶ岳往復
1951	3	後立山逆縦走（第1次、失敗）
	7	鹿島槍・カクネ里合宿（蝶左、PIなど）
	9	北岳バットレス登攀（第2尾根新ルートなど）
1952	3	小日向尾根より不帰往復
	7	鹿島槍・カクネ里合宿（直接尾根、蝶右、中央レンゼなど）
1953	3	後立山逆縦走・針ノ木岳～白馬岳
	12	穂高・天狗のコルより槍ヶ岳往復
1954	3	春の黒部へ 渡河ルートなど偵察
	12	鹿島槍東尾根
1956	3	黒部川下廊下、積雪期初横断
	春	日本山岳会マナスル第3次遠征隊に徳永篤司が参加
	12	北岳バットレス第4尾根
1957	12	双六岳より赤牛岳往復、女子冬山合宿・南ア仙丈岳
1958	3	天狗尾根より爺岳、五竜岳
	12	瀬沢岳西尾根より北穂高岳、奥穂高岳
1959	3	黒部川上廊下、積雪期初横断
	春	日本山岳会ヒマルチュリ遠征隊に住吉仙也が参加
1960	3	薬師岳東面 真砂尾根から劔岳・ハツ峰I峰東面
	春	東海岳連ジュガール・ヒマール遠征隊に二木節夫が参加
1961	春	ヒマラヤP-29峰第1次遠征隊（隊長：篠田軍治）派遣
	7	劔岳・真砂沢合宿 チンネ、大窓で2名負傷
	11	富士山冰雪訓練で、堀井昭彦君が滑落死
1962	11	阪大山の家「樺の木寮」が完成
1963	秋	P-29峰第2次遠征隊（隊長：篠田軍治）派遣
	3	日本海から五竜岳縦走

1964	3	双六から黒部川上流経由、針ノ木岳往復
1967	3	黒部川上廊下、積雪期完全廻行
1969	秋	P-29 峰第3次遠征隊（隊長：住吉仙也）派遣
1970	10	P-29 峰第4次遠征隊（隊長：水野祥太郎、登攀隊長：住吉仙也）派遣、初登頂に成功（登頂後、渡部洋隊員とシェルパが滑落事故で死亡）
1976	8	カラコルム・アプサラサス峰に初登頂（隊長：三澤日出夫）
1982	3	現役3名がヒマラヤ・ロブジェピーク遠征
		水野祥太郎氏が第2代会長に就任
1984	7	バツラ山群・サンゲマルマル峰に初登頂（隊長：松尾敬志）
	10	徳永篤司氏が第3代会長に就任
1989	春	戸叶聡ら4名、クーンブヒマールのクスム・カングルへ
1992	3	大倉徹雄がヒマラヤ・アイランドピーク登頂
1993	11	劔岳で飯田真宏君が滑落死
1995	秋	光永正樹がカトマンズクラブ・マナスル遠征隊に参加
1997		三枝礼子氏が「ネパール語辞典」の編纂でネパール国王より勲章を受章
1998		医学部山岳部が阪大山岳部に合流
1998		三枝礼子氏が「ネパール語辞典」の編纂で秩父宮記念山岳賞を受賞
1999	8	創立50周年記念集会を長野県白馬村・対岳館で開催
	秋	阪大山の家「樺の木寮」が解体・消滅
2000	4	これまでの会報「時報」を廃止し、会報「OUMC」発刊
	10	田島汎他7名でP-29 遠征隊BC周辺トレッキング
2001	6	大野義照氏が第4代会長に就任
	8	創立50周年記念碑を対岳館に建立
2002	12	畑秀信がパタゴニア・フィッツロイ登攀
2005	11	創立50周年記念誌「後立山からヒマラヤへ」を発刊
2008	3	越智栄次郎氏が大峰山柏木の岩場で墜落死
	8	西川元夫が大阪山の会ツラギ登山隊に参加
2008	12	出雲路敬孝、糸井文彦、石原敏雄がチベット東部の山岳調査（この後4年間調査継続）
2010	8	山岳会ホームページを開設
2010	8	2007年の大阪大学と大阪外国語大学の統合をうけ、大阪外国語大学山岳会(OGAC)との交流活動開始
2011	11	P-29 遠征隊記録の電子化資料を阪大附属図書館などに寄贈

2011	8	明神知がマッターホルン登頂
2012	4	山岳部が大阪大学千里体育館内にクライミングウォールを設置
2012	7	ICIMOD（国際山岳総合開発センター）、HAT-J（日本ヒマラヤ・アドベンチャー・トラスト）とともに大阪大学総合学術博物館（豊中キャンパス）で「Himalaya－Changing Landscapes」写真展を開催
2012	8	井上太一がモンブラン、マッターホルン等に登頂
2014	9	山岳部が日本学生スポーツクライミング対校選手権大会においてボルダリング部門で3位入賞
2015	12	9月に亡くなった住吉仙也氏のお別れ会を日本山岳会関西支部、大阪府山岳連盟と共催で実施